

マーケット概況（2019年10月）

10月の債券相場は、1日に行われた10年債入札においてテールが29銭となり、2015年3月以来となる不調な結果となったことから、長期ゾーンを中心に急落して始まった。しかし、米国景気関連指数の悪化や3日に実施された流動性供給入札の順調な結果を受けて債券相場は持ち直し、10年356回債の利回りは前月末比ほぼ横ばいの-0.230%まで回復した。10日の30年債入札は好調な結果となったが、米中貿易協議の進展を受けて米国株式相場が上昇し、日経平均株価が年初来高値を更新したことなどから、債券相場は次第に軟調地合いとなり、債券先物12月限は21日まで7営業日続落となった。24日の20年債入札が無難な結果となり、超長期債主導で一時的に買われる場面も見られたが上値は重く、日銀の追加金融緩和が見送られる公算が強まる中で中期ゾーンも弱含み、イールドカーブのベアフラット化が進んだ。その後もリスク回避の巻き戻しから債券相場は売りが優勢となり、10年356回債の利回りは月の安値となる-0.115%まで上昇した。月末には米国政策金利が0.25%引き下げられ、日銀政策金融決定会合ではフォワードガイダンスの変更により将来的な追加緩和の可能性が示唆されたが、債券市場には日米のイベントを通過した安心感から買い戻しが入り、10年356回債の利回りは-0.150%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

月初は、ベシススワップ金利のマイナス幅拡大による投資家需要により3M金利は-0.3%台で推移していたが、金利が急低下したことによる反動や国庫短期証券買入オペが最低水準に減額されたことで、次第に金利上昇した。4日の3M861回債入札では、最高落札利回りは-0.3333%と2017年3月以来の低水準となった。その後国庫短期証券買入オペが1回あたり1,000億円に減額されたことで需給が緩み、11日の3M863回債入札では-0.28%台、18日の3M865回債入札では-0.19%台、25日の3MTDB866回債入札では-0.17%台に上昇した。最終的に3M866回債は、-0.200%で取引を終えた。6M、1Yは、ともに-0.30%台でスタートしたが、次第に10月末の日銀金融政策決定会合における追加緩和期待が後退したことで金利上昇し、最終的に6M862回債は-0.235%、1Y864回債は-0.220%で月内の取引を終えた。

<一般債市場>

新発政保債、地方債の起債条件はともに前月比同水準で決定した。起債日前々日に日銀が国債買入額の減額方針を示したこともあり、長期金利は直前に水準を切り上げたが、スプレッドプライシングに回帰するほどの上昇には結び付かず、安心感から引き続き販売は順調だった。既発債では、目先の金利先高感から絶対値が確保できる銘柄が選好された。社債では、三菱UFJフィナンシャルグループをはじめとする金融銘柄や東京電力パワーグリッドの大型案件が発行量を押し上げ、1兆7,440億円が発行された。10月としては銘柄数とともに過去最高の水準となったが、絶対値に厚みのある銘柄には投資家の資金流入が継続し、好調な需要が継続した。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#356	-0.170(1日)	-0.230(7日)	-0.115(29日)	-0.150(31日)
#355	-0.200(1日)	-0.245(7日)	-0.130(29日)	-0.165(31日)
#345	-0.315(1日)	-0.375(4日)	-0.245(29日)	-0.250(30日)
#141(5Y)	-0.280(17日)	-0.280(17日)	-0.235(29日)	-0.270(31日)
#170(20Y)	0.245(24日)	0.220(31日)	0.270(29日)	0.225(31日)
#862TDB(6M)	-0.310(9日)	-0.310(9日)	-0.225(23日)	-0.235(25日)
#860-#866TDB(3M)	-0.390(1日)	-0.390(1日)	-0.180(25日)	-0.200(30日)